

# YAMAKADO NEWSLETTER

NO.94

2007/09/20

山門水源の森を次の  
世代に引き継ぐ会

## 連続気象観測可能に



気象観測機器設置作業完了 (07/08/26)

定項目は、気温・気圧・湿度・水温・降水量・日射量・紫外線である。

「2007年 おうみNPO 活動基金」のおかげで、やっと連続気象観測が可能になった。10年来の悲願であったのだが、9月1日から正式に観測を開始した。今後微調整は必要だが、異常気象続きの昨今すべての生物調査の基本となる機器設置である。場所は中央湿原と北部湿原の中央部に設置した。もっとも積雪期には、凍結するので降水量の測定ができないが、場所が場所だけに止む得ないことである。測

## 観察コース補修も楽じゃないが・・・



浸食で出来た溝を埋める土砂の運び上げ (07/09/15)

訪問者の増加と局部的豪雨の増加で、観察コースの浸食が著しくなり、歩行も困難となると同時に、訪問者が凹凸を避けてコース横を歩く結果を招いている。そのことでコース沿いの里山植物の踏みつけが生じ、リンドウやセンブリ、ササユリが損傷するという事態が続いていた。がこの補修は簡単ではない。基盤岩石が花崗岩ということもあり、周囲に補修材として使える礫がない(土壌で補修しても次の降雨時にすべて流下してしまう)。やむなく西浅井町にお願いして礫を含む土砂を調達してもらった。

が「やまかど・森の楽舎」から上への運搬は人力以外に方法がない。真夏を思わせる蒸し暑さの中、会員の文字通り汗で何とかその一部は補修ができた。が全コース中には、まだまだ補修作業や草刈を待っている場所がある。環境保全と言葉は美しいが、その裏側はただただ忍耐の作業である。



運び上げた土砂で溝を埋める (07/09/15)





カエントケ (07/08/24)

る。猛毒のため警告の看板を即刻設置した。ところでその毒性がどんなものなのかわからず、個体に接近して撮影したのが上の画像なのだが、キノコの専門家である小寺会員が、この後撮影に行かれた際の撮影風景が右の画像である。これを見せていただいてその毒性を実感した次第である。

「やまかど・森の楽舎」付属湿地は、2004 年造成以来年々生物相が厚くなり最高の観察場所となりました。前号で報告した観察用に「飛び石」を設置したため、小さい生物の観察がさらに便利になりました。9月6日には、この狭い湿地で10頭にも及ぶルリボシヤンマの産卵が観察されました。



PHOTO BY KOTERA

カエントケの撮影風景 (07/09/26)



同一個体の産卵場所の移動 (07/09/06 左から 9:56 9:57 9:59)



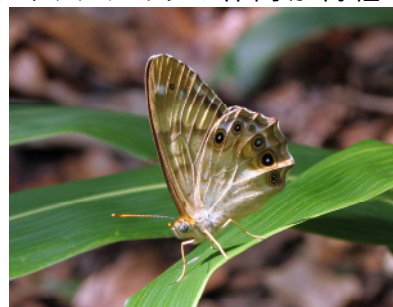
『窓』が広がりました (07/09/05)

撮影できました。資料によれば森のあたりは、これまでは空白域になっています。トンボをはじめとして、昆虫類も本腰を入れて調べてみる必要があるようです。

**森は今キノコラッシュです。三脚持参でゆっくりとおでかけ下さい。**

現在「ブナの森コース」(旧称健脚コース)の草刈を実施しています。この中でこのコースの眺望の悪さがかねがね問題視されてきました。この中で唯一大浦湾が眺望出来る場所がありました(通称『窓』)。この部分の除伐と下草刈りを行った結果、大浦湾から伊吹山までの角度が眺望出来るようになりました。秋の空気が澄んでくると素晴らしい景観を楽しんでいただけることになりました。

森にはジャノメチョウの仲間が何種類か生息しています。このうちキマダラモドキがやっと



キマダラモドキ (07/09/08)